

# アスリートと連携したキャリア教育プログラムが児童の無気力感に与える効果

## The effect of Career Education Program cooperated with athlete on primary school Students' Apathy

スポーツビジネス研究領域

5010A012-4 植村 輝

研究指導教員：間野 義之 教授

### 1. 背景

今日の日本は多くの教育問題を抱えており、特に不登校生徒の増加・学級崩壊・いじめ問題など学校不適応行動が問題視され、教育問題の原因として無気力が挙げられている（桜井，1994）．無気力は、Walters（1961）によって大学生の留年など学業に対する意欲の欠如状態として明らかにされ、わが国でも、大学生を中心に、中学生や高校生、社会人にまで及び、より広い年齢層にも見られることが指摘された（笠原，1978，樋口，1981 他）．

このように、無気力および課題解決のための施策として「総合的な学習の時間」が教育課程内に設けられ、その中でも「多様な職業や生き方を知り、自己の生き方を見つめること」を目的として「キャリア教育」が広がりを見せている（渡邊，2004）．その一例として、（財）日本サッカー協会（以下 JFA）が自治体・小学校と協力した社会貢献事業である「JFA こころのプロジェクト」がある．小学生高学年を対象にさまざまな種目のアスリートが、自身の夢や目標達成について語るとともに、夢を持つことの大切さを伝え、自己実現意欲の向上を目的とした事業である（JFA 2011）．これにより「夢」「目標」の達成に必要なことを学ぶことで意識を高め、主体性・能動性が生まれ、無気力状態の改善に効果があることがわかれば、教育界が抱える問題解決につなげることができると考えられる．

### 2. 目的

アスリートと連携したキャリア教育プログラムが参加児童の無気力感に与える効果を検証すること．

### 3. 方法

#### ①調査対象者

北越地域 A 県 B 市の 5 年生

（介入群）

公立小学校（2 校，3 クラス）の 5 年生 107 名（男子 53 名，女子 54 名）のうち、有効データ 100（男子 48 名，女

子 52 名 有効回答率 93. 5%）．

（対照群）

公立小学校（1 校，3 クラス）の 5 年生 105 名（男子 47 名，女子 58 名）のうち、有効データ 98（男子 43 名，女子 55 名 有効回答率 93. 3%）．

#### ②プログラム概要，検査手続き

プログラム…授業 2 時間分を使用．前半を「ゲームの時間」、後半を「トークの時間」とした．

「ゲームの時間」…前半 35 分、アスリートとの運動プログラムを通して「仲間を大切にすること」、「ルールを守ること」、「とにかく楽しむこと」の大切さが強調された．

「トークの時間」…後半 55 分、「夢」を題材として、アスリート自身が夢や目標を持ち、それに向かって努力し、家族や仲間の手助けや励ましを通して困難を乗り越え、実際に夢を掴んだ成功体験を話した．それをもとに、児童自身が夢や将来のキャリアについて考える学習を実施した．

#### ③実施アスリートの特性

今回介入群に対してプログラムを実施したアスリートのうち、A アスリート、B アスリートとも学校ごとに異なるアスリートが担当した（Table1）．

Table1 実施アスリート特性

| アスリート | D校(2クラス) |                      | E校(1クラス) |                       |
|-------|----------|----------------------|----------|-----------------------|
|       | Aアスリート①  | Bアスリート①              | Aアスリート②  | Bアスリート②               |
| 性別    | 男性       | 男性                   | 男性       | 男性                    |
| 年齢    | 34       | 42                   | 33       | 31                    |
| 競技種目  | サッカー     | サッカー                 | サッカー     | クロスカントリー              |
| 競技歴   | 元年代別日本代表 | 元日本代表<br>(ワールドカップ出場) | 元年代別日本代表 | 現日本代表<br>(冬季オリンピック出場) |

#### ④検査及び手続き

無気力感尺度小学生版（以下 無気力感；笠井ら，1995）を使用した．得点範囲は 28－112 点であり、無気力感が高いほど高得点となるように設定した．

無気力感の調査は介入群・対照群ともにプログラム実施 1 ヶ月前（以下 P0）の 9 月中旬、プログラム実施直後（以

下 P1)の10月中旬,プログラム実施1ヵ月後(以下 P2)の11月中旬の全3回,縦断的集団調査法で実施した。検査からプログラム実施までの工程をTable2に示した。

Table2 プログラム行程

| 時間<br>(分) | 内容          | 詳細                                  | 実施場所 |
|-----------|-------------|-------------------------------------|------|
| (授業1ヵ月前)  | アンケート①(P0)  |                                     | 教室   |
| 0         | 「ゲームの時間」開始  | アスリートの自己紹介<br>プログラム内容説明             |      |
| 5         | ウォーミングアップ   |                                     |      |
| 10        | サブゲーム       | 個人同士の対決形式                           | 体育館  |
| 20        | メインゲーム      | Aアスリート対クラス全体の<br>対決形式               |      |
| 35        | 「ゲームの時間」終了  |                                     |      |
| (10)      | (移動・準備)     | (資料の配布)                             |      |
| 0         | 「トークの時間」開始  | Bアスリートが「夢」を題材として、<br>自身の体験談をもとにした講義 |      |
| 30        | 配付資料記入      | 「自分の夢」<br>「夢や目標達成のために努力すること」記入      | 教室   |
| 50        | 「トークの時間」まとめ | 講義のまとめ<br>集合写真撮影・Bアスリートとの握手         |      |
| 55        | 「トークの時間」終了  |                                     |      |
| (授業直後)    | アンケート②(P1)  |                                     | 教室   |
| (授業数日後)   | 配付資料の清書     | 「授業の感想」Bアスリートに対するメッセージ記入            |      |
| (授業1ヵ月後)  | アンケート③(P2)  |                                     | 教室   |

⑤統計処理

プログラムによる介入刺激の有無(2水準)ならびに時間(3水準)を独立変数,無気力合計得点および各因子の平均点を従属変数として二元配置共分散分析を行った。

【結果】

「無気力感の合計得点」および「充実感・将来の展望の欠如」,「学習不適応感」,「非能動感・無力感」に交互作用が認められ,プログラム実施直後に無気力状態全般および「学習不適応感」,「非能動感・無力感」に,授業1ヵ月後までに「充実感・将来の展望の欠如」にそれぞれ効果

が現れた(Table3)。

【考察】

動機づけにより,無気力の解消が見られ,特に「充実感・将来の展望の欠如」「学習不適応感」「非能動感・無力感」に効果が見られた。さらに,児童の本業である学習や非能動性に対する効果が先に現れ,自身の将来への展望に対する効果が徐々に現れるという仕組みが明らかになった。

また,「充実感・将来の展望の欠如」「学習不適応感」は,経時的な変化パターンに多少の差異はあるものの,その効果に共通性があることが明らかになった。これは,動機づけのプロセス自体について学び,その大切さと勉強の必要性を理解し,学習に対する抵抗感・不適応感が解消されると同時に有能感が生まれ,授業直後に「学習不適応感」に効果が現れたが,自身の目標については設定しきれていない状況であることがうかがえる。その後,「夢」を考えることを通して,目標の設定が行われ,「充実感・将来の展望の欠如」に遅れて効果が見られたと考えられる。

【結論】

アスリートによるキャリア教育プログラムにより,児童の全体的な無気力感が有意に低下し,「学習不適応感」「非能動感・無力感」はプログラム直後に,「充実感・将来の展望の欠如」は授業直後～授業1ヵ月にそれぞれ有意に低下していることが明らかになった。

また,「充実感・将来の展望の欠如」「学習不適応感」は,経時的な変化パターンに多少の差異はあるものの,その効果に共通性があることが明らかになった。

Table3 介入群と対照群における無気力の分散分析結果

| 介入群 N=100, 対照群 N=98 |     |        |       |       |      |        |       |                 |          |          |          |
|---------------------|-----|--------|-------|-------|------|--------|-------|-----------------|----------|----------|----------|
| 因子                  | 群   | 授業1ヵ月前 |       | 授業直後  |      | 授業1ヵ月後 |       | 交互作用<br>(時間×群間) | 多重比較検定   |          |          |
|                     |     | P0     |       | P1    |      | P2     |       |                 | P0 vs P1 | P0 vs P2 | P1 vs P2 |
|                     |     | M      | SD    | M     | SD   | M      | SD    |                 |          |          |          |
| 無気力感（合計得点）          | 介入群 | 58.31  | 8.54  | 55.21 | 8.97 | 54.46  | 9.06  | 5.08**          | ***      | ***      | n.s.     |
|                     | 対照群 | 56.66  | 10.23 | 56.06 | 9.76 | 55.44  | 10.38 |                 | n.s.     | n.s.     | n.s.     |
| ①充実感・将来の<br>展望の欠如   | 介入群 | 2.24   | .69   | 2.15  | .76  | 1.99   | .74   | 3.58*           | n.s.     | **       | *        |
|                     | 対照群 | 2.13   | .73   | 1.99  | .64  | 2.04   | .67   |                 | **       | n.s.     | n.s.     |
| ②学習不適応感             | 介入群 | 2.15   | .53   | 2.04  | .54  | 2.04   | .57   | 3.94*           | *        | *        | n.s.     |
|                     | 対照群 | 1.99   | .55   | 2.04  | .58  | 1.99   | .63   |                 | n.s.     | n.s.     | n.s.     |
| ③身体的不全感             | 介入群 | 1.95   | .58   | 1.81  | .54  | 1.80   | .49   | n.s.            | **       | **       | n.s.     |
|                     | 対照群 | 1.98   | .54   | 1.92  | .58  | 1.96   | .62   |                 | n.s.     | n.s.     | n.s.     |
| ④消極的友人関係            | 介入群 | 1.86   | .49   | 1.81  | .40  | 1.82   | .44   | n.s.            | n.s.     | n.s.     | n.s.     |
|                     | 対照群 | 1.81   | .30   | 1.82  | .34  | 1.80   | .37   |                 | n.s.     | n.s.     | n.s.     |
| ⑤非能動感・無力感           | 介入群 | 2.16   | .54   | 1.99  | .45  | 2.03   | .50   | 5.25*           | **       | n.s.     | n.s.     |
|                     | 対照群 | 2.20   | .50   | 2.23  | .41  | 2.10   | .43   |                 | n.s.     | n.s.     | **       |

\*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001